

取扱注意

資料4

フリースクール等民間施設を利用する
児童生徒・保護者を対象としたアンケート調査結果（速報）

令和6年9月10日（火）

子ども若者部子どもの育ち学び支援課

○令和6年7月よりフリースクール等民間施設を利用する児童生徒・保護者を対象としたアンケート調査を開始。

○登録者数・回答者数（令和6年8月12日現在）

【登録者数】・児童生徒 118名

・保護者 118名

【回答者数】・児童生徒 102名（回答率 86.4%）

・保護者 113名（回答率 95.8%）

○属性	【小学校】	1年生 5名	2年生 8名	3年生 13名	
		4年生 19名	5年生 12名	6年生 13名	
	【中学校】	1年生 12名	2年生 19名	3年生 12名	計113名

○対象

「保護者向け周知資料」より

【子ども・保護者】

- 子どもが小・中学校で不登校の状態にあること。（R5年度またはR6年度中に概ね30日以上欠席）
- 子どもが以下に該当する民間施設を利用していること。

【民間施設】

- 不登校児童生徒に対する相談・指導等を主な事業目的とする学校以外の民間の施設であること。
- 実施者は事業に関する深い理解と知識・経験や、社会的信望を有すること。
- 教育への深い理解と、指導についての知識・経験と熱意を有する相談・指導スタッフが配置されていること。また、相談・指導スタッフは過去に子どもを対象とした性犯罪に関わっていないこと。※自己申告に基づく。
- 学校との間に十分な連携・協力関係が保たれていること。
- 授業時間（概ね8:30～16:00）に月1日以上開設されていること。

アンケート調査結果 (R6年8月12日現在)

※1 右記のとおり回答者を色分けしています。

子ども回答

保護者回答

※2 比率の標記は、各数値を小数点以下第2位で四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。

図1 登校しづらくなった学年

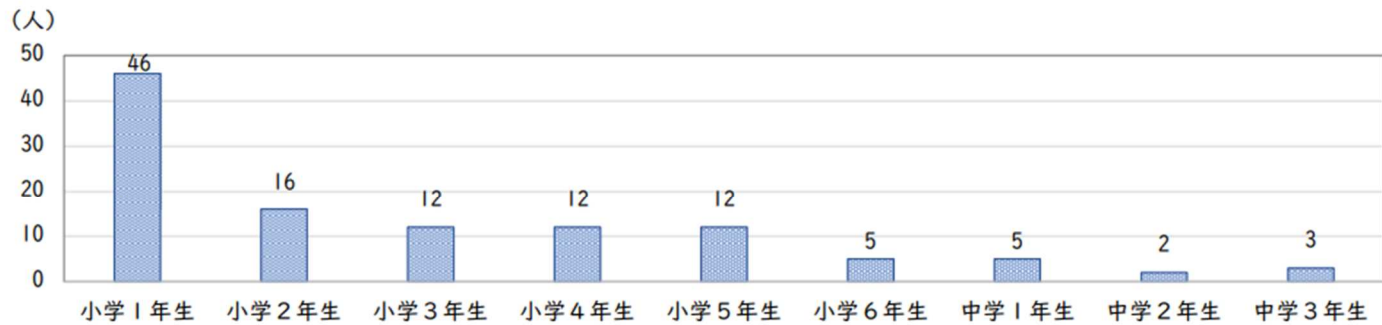
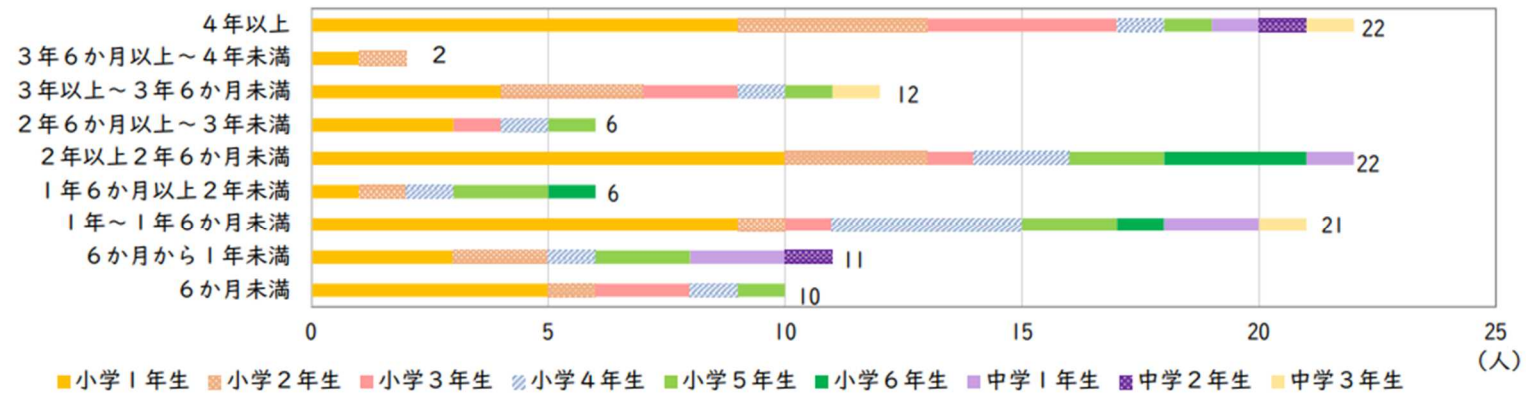


図2 休んでいる期間

1年以上休んでいる子どもが全体の約8割

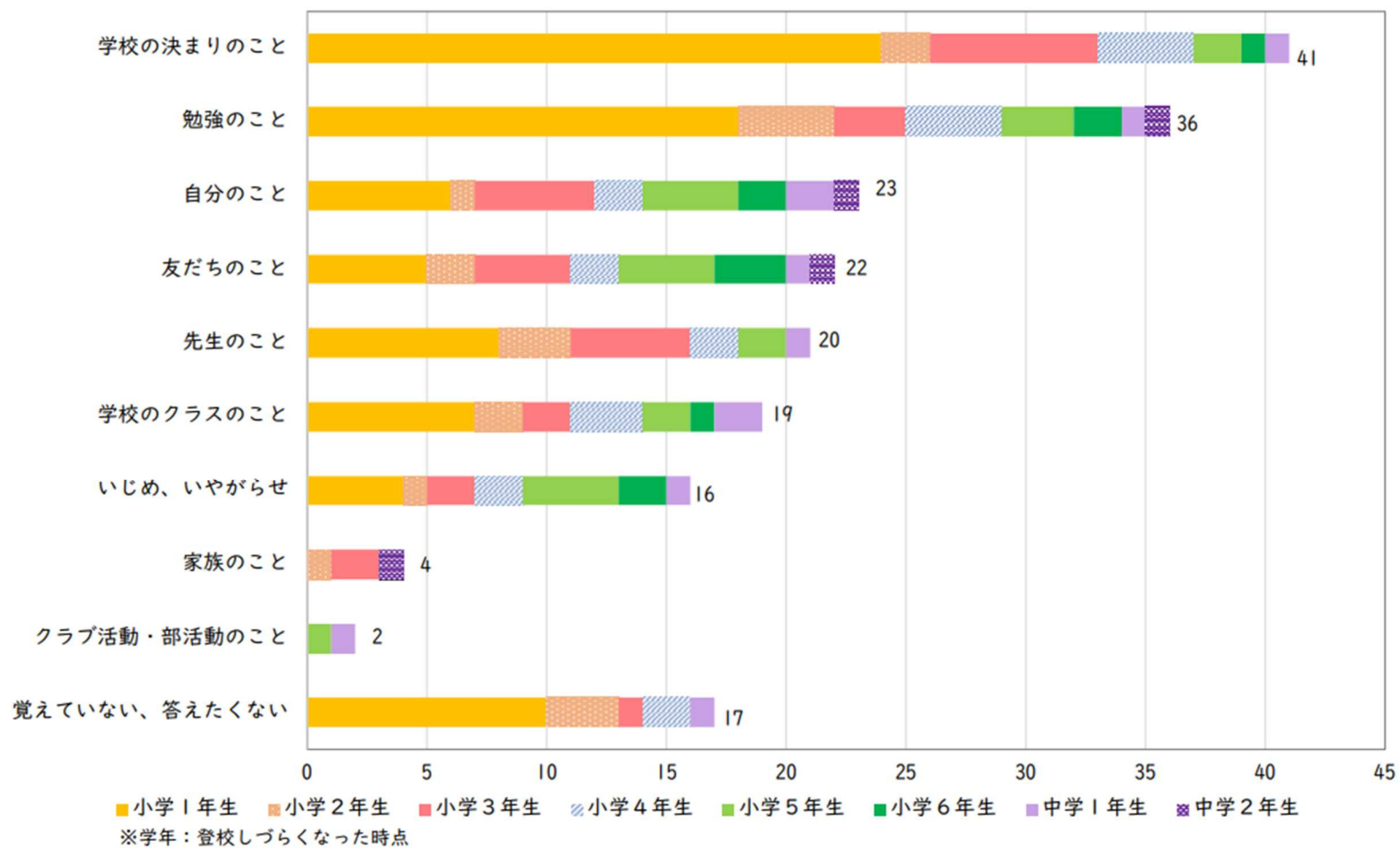


(注1) 学年：登校しづらくなった時点

(注2) 登校しづらくなった期間を合算し回答されているものがある

図3 登校しづらくなったきっかけ(複数回答)

いずれの学年も「学校の決まりのこと」、「勉強のこと」が主な要因となっている



④ 「小学1年生」、「中学1年生」の時期から学校に行きづらくなったきっかけは以下のとおり。
 小学1年生では、園児から小学生へと環境が大きく変わることが最も多いきっかけとなっている。中学生の実態は母数が小さいこともあり傾向が読み取れなかった。

図4 小学1年生から行きづらくなったきっかけ（複数回答）

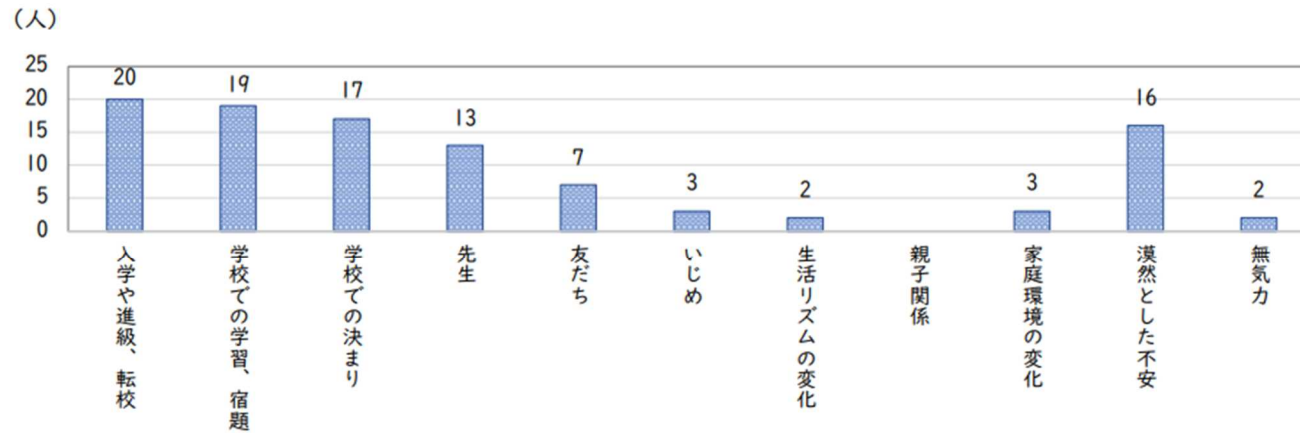


図5 中学生から行きづらくきっかけ（複数回答）

※「中学1年生」の回答数が少ないため「中学生」の回答を集計

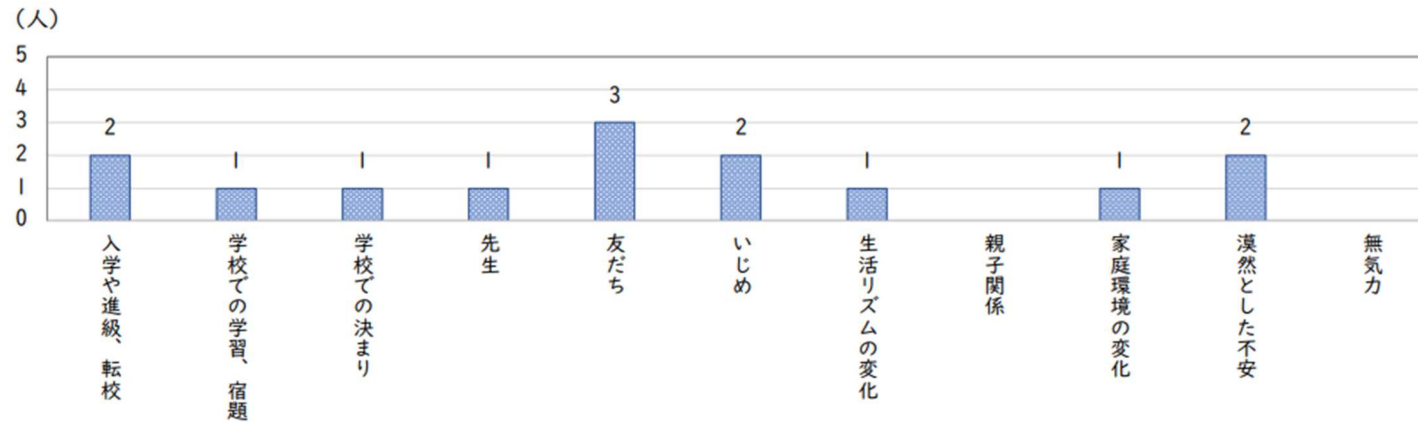


図6 不登校になり心配だったこと（複数回答）

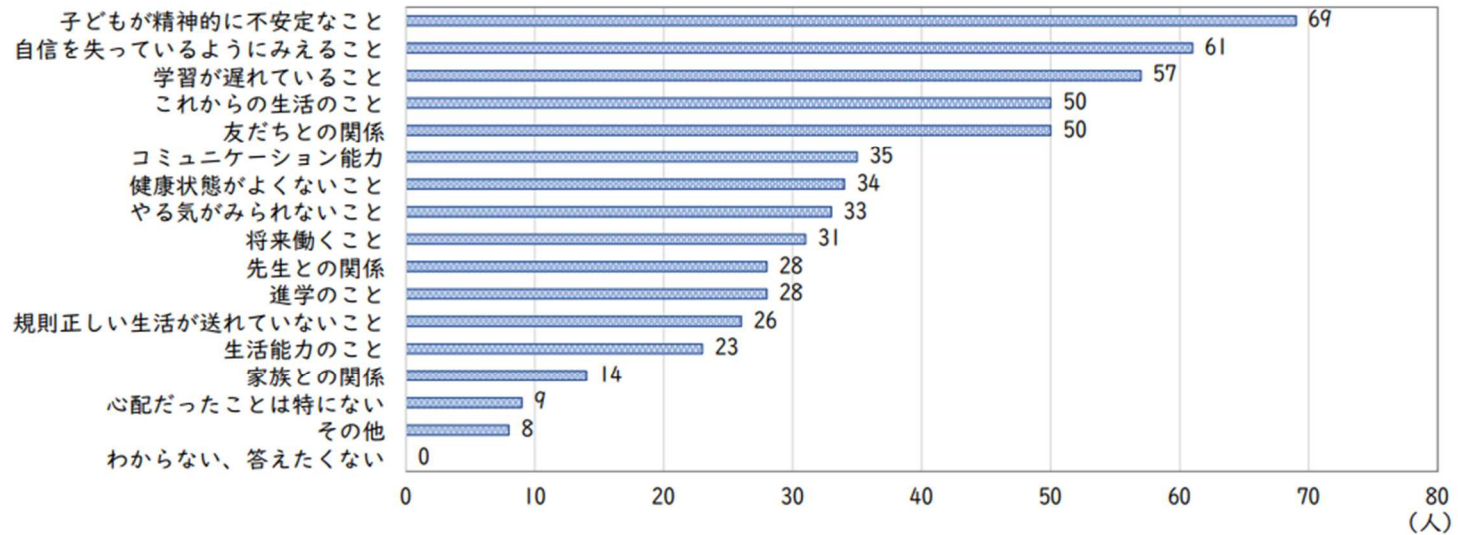


図7 不登校になってからの保護者の感情の変化

図7-1 イライラすること

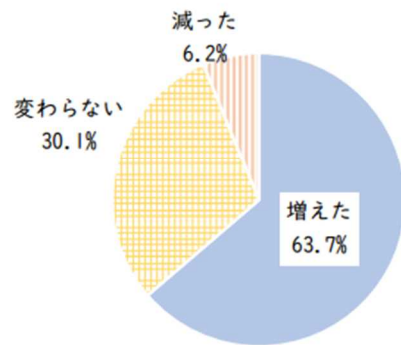


図7-2 落ち込み・自身を責めること

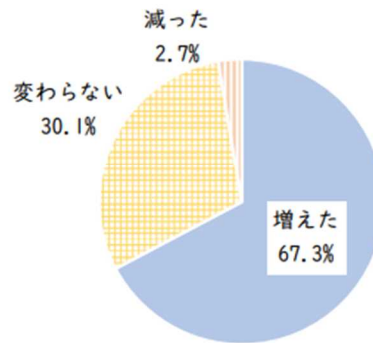


図7-3 孤独感・孤立感

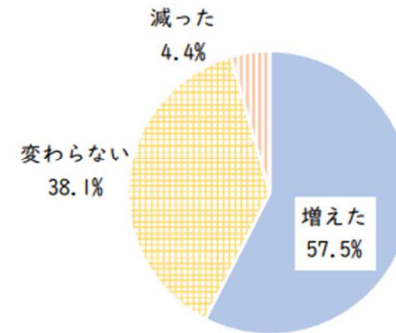


図8 学校に行きづらくなった時に相談した人(複数回答)

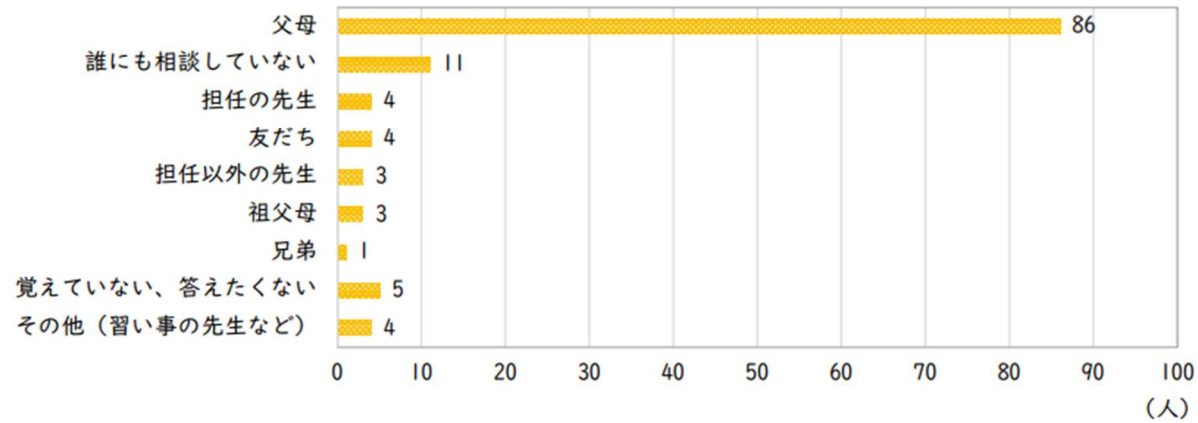
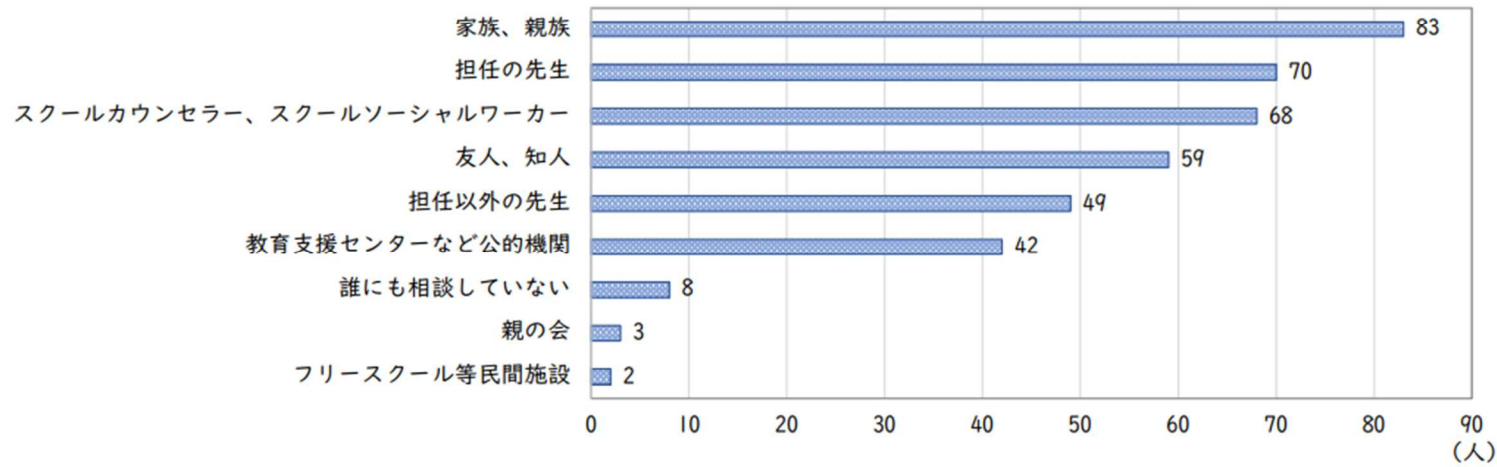


図9 子どもが学校を休むようになった際の相談先(複数回答)

学校に相談する保護者が多い



小学生は「決まりやルール、給食、制服などをおしつけられない」、「休み時間の過ごし方を強制されず自由に過ごせる」の回答が多く、中学生は「しんどいときに休める場所がある」、「仲の良い友だちがいる」の回答が多い

図10 登校しやすい学校(複数回答)

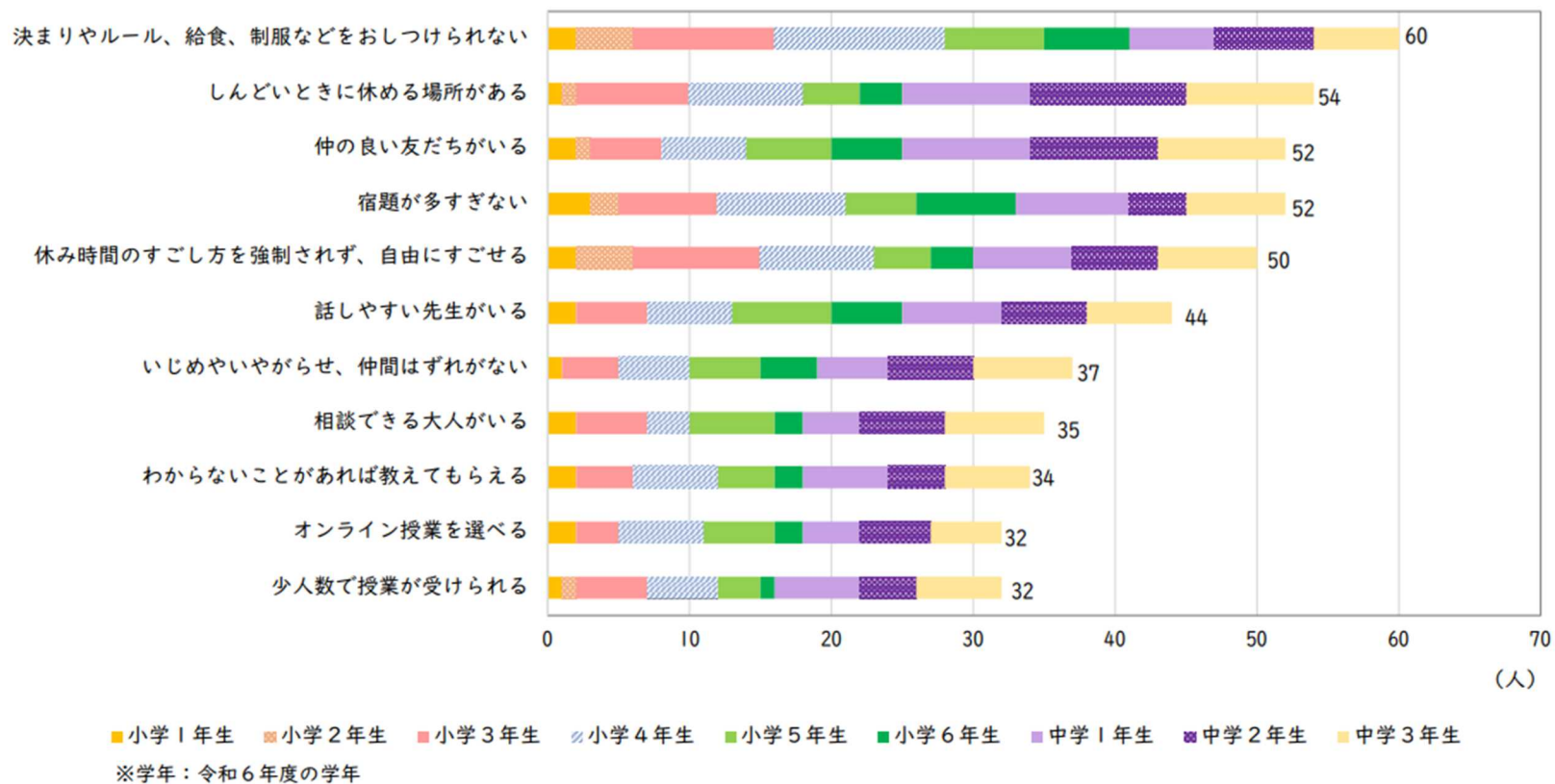


図11 学校に求める支援

「フリースクール等民間施設との連携強化」、「教室以外の居場所の充実」を学校に望む声が多い

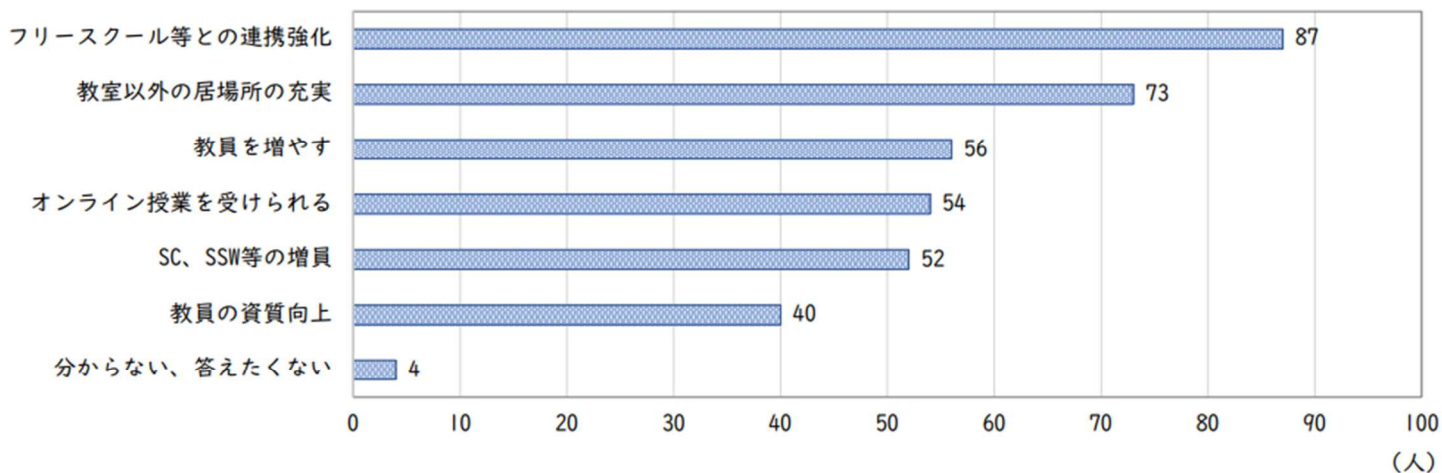


図12 学校教員に求める支援

「子どもの個性に合わせた指導」、「特別な配慮が必要な子どもへの対応力」が教員に求められている

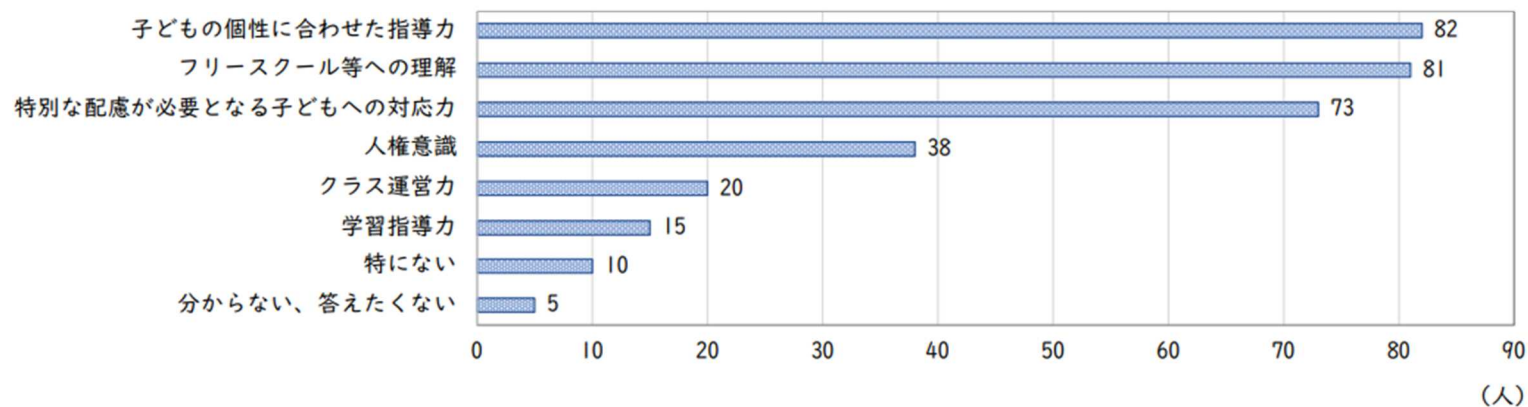


図13 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの利用状況

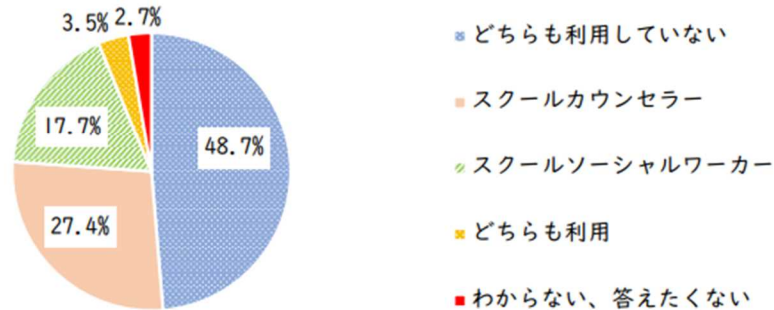
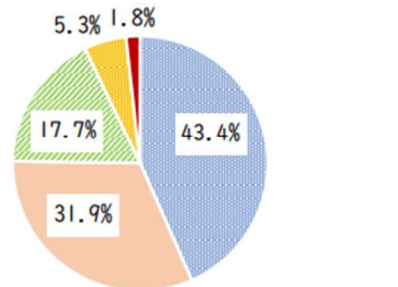
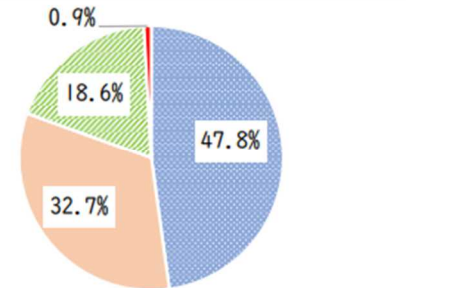


図14 校内教育支援センターの利用状況



- 一度も利用したことがない
- 以前は利用していたが、現在は利用していない
- 授業の時間帯に利用
- 放課後に利用
- わからない、答えたくない

図15 校外教育支援センターの認知度



- よく知っている
- 聞いたことはあるが、どのようなところかは知らない
- 知らない
- わからない、答えたくない

(参考) 校外教育支援センターの利用について

【施設をよく知っている場合】

○以前は利用していたが、今は利用していない	59.2%
○一度も利用したことがない	27.8%
○利用している	11.1%
○わからない、答えたくない	1.9%

(参考) 校外教育支援センターを利用する理由

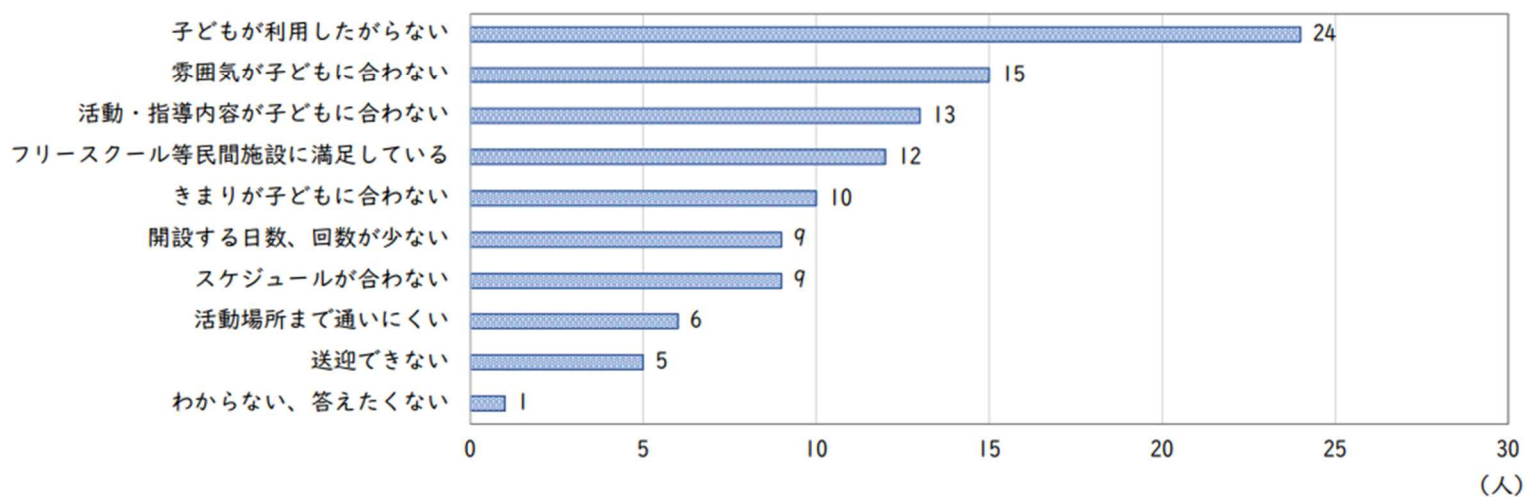
- 活動・指導内容が子どもに合っているから
- 雰囲気が子どもに合うから
- 教育相談を行っているから
- 費用がかからないから

(参考) 校外教育支援センターに求めること

- 特性のある子どもの理解
- 個別利用の回数を増やす
- 開所時間を長くする

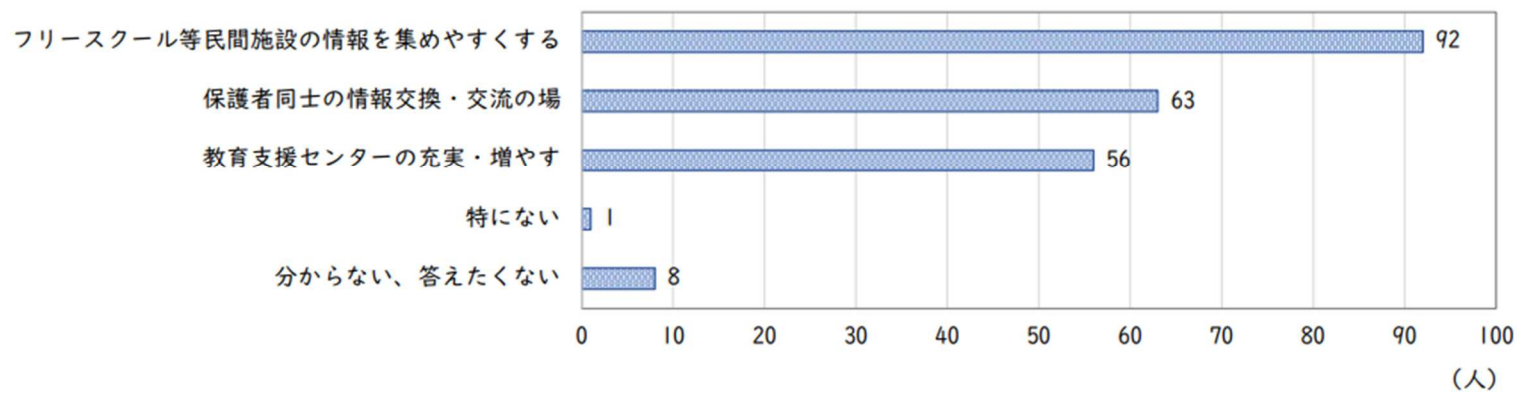
「活動・指導内容」、「雰囲気」が「子どもに合っている」ことにより利用を決める保護者が多い。

図16 校外教育支援センターを以前、利用していたが現在利用しない理由（複数回答）（n=32）



■ 「フリースクール等民間施設の情報を集めやすくする」、「保護者同士の情報交換・交流の場」を求める声が多い
また、約5割が「教育支援センターの充実」と回答。

図17 求める公的支援（施設・情報）



子どもは施設の「活動・指導内容」、「雰囲気」により利用先を選択している傾向にある。
保護者は「子どもに合うかどうか」が大きな決め手になっている。

図18 フリースクール等民間施設利用のきっかけ(複数回答)

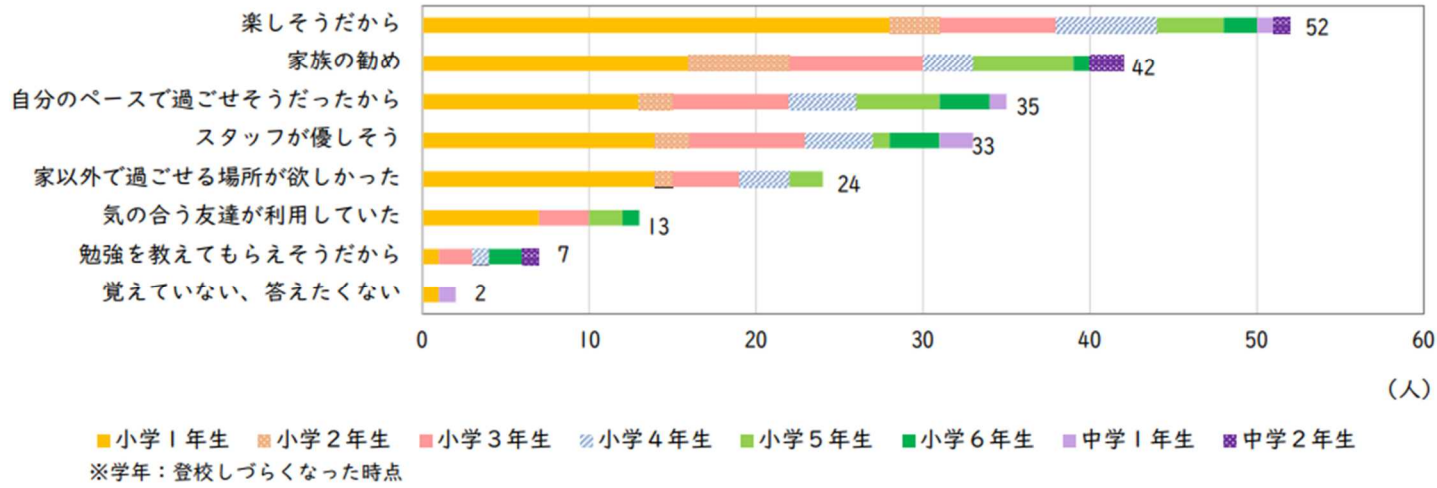
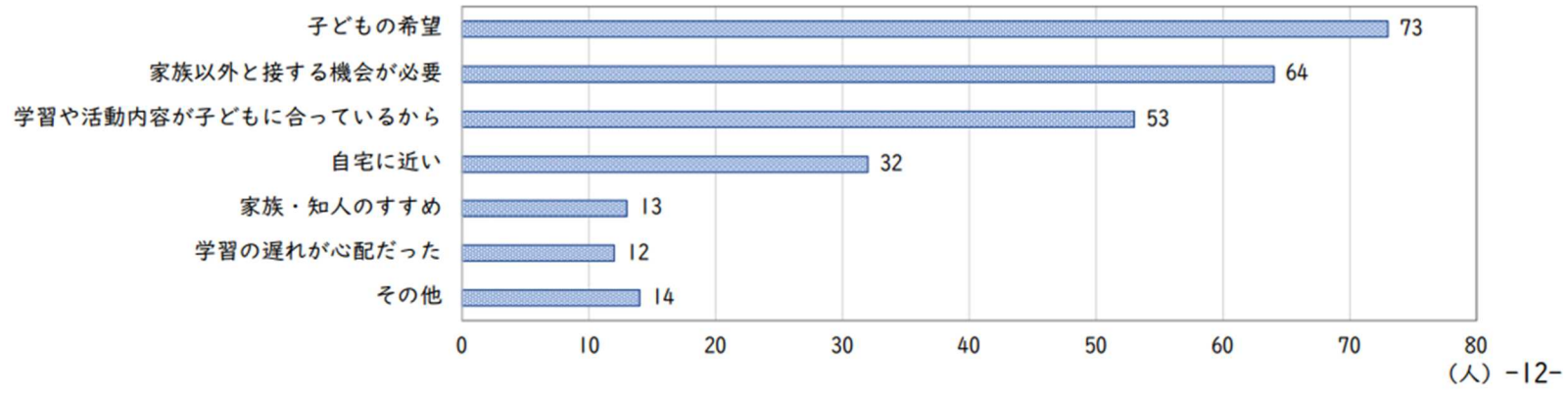


図19 利用するフリースクール等民間施設利用を選んだ理由(複数回答)



フリースクール等民間施設の情報収集は保護者の負担の1つになっている

図20 フリースクール等民間施設を知るきっかけ（複数回答）

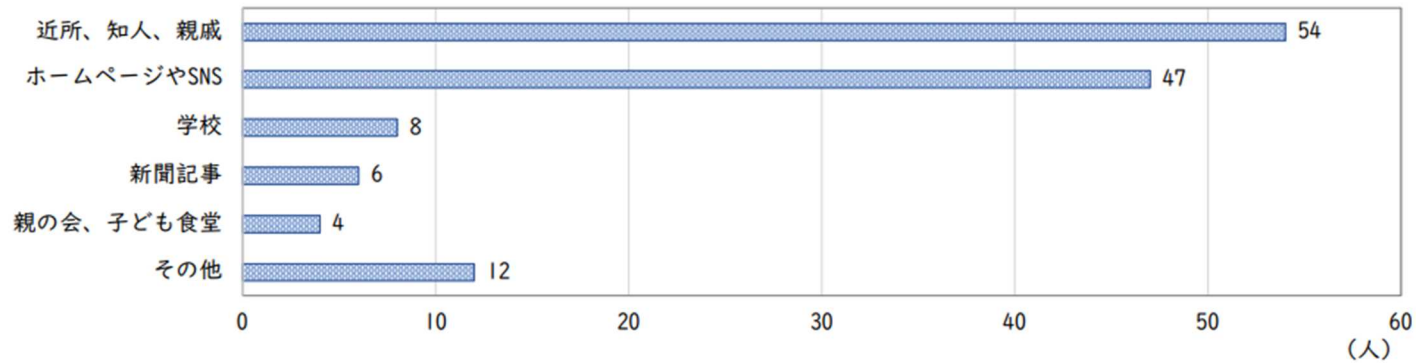


図21 フリースクール等民間施設を探す中での負担（複数回答）

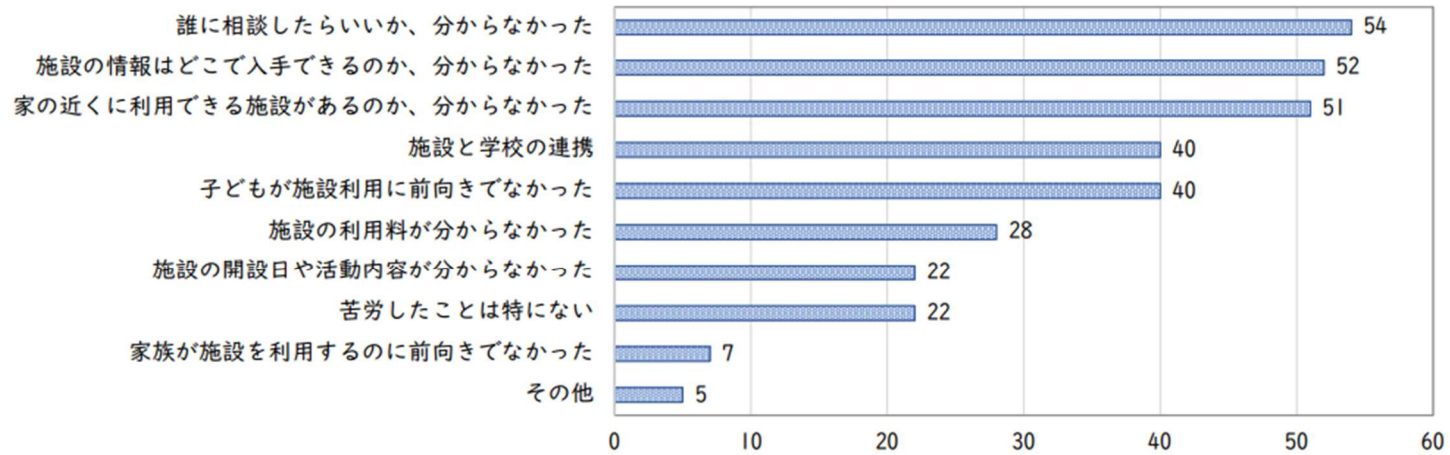
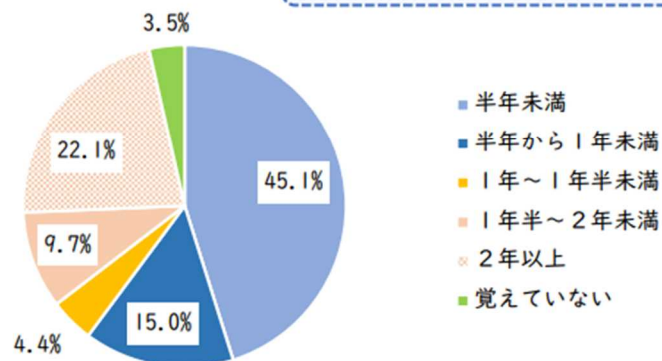


図22 フリースクール等民間施設利用までにかかった期間

約5割が学校を休むようになって半年以内にフリースクール等民間施設を利用



約3割が「週4～5日」フリースクール等民間施設を利用

図23 フリースクール等民間施設の利用頻度

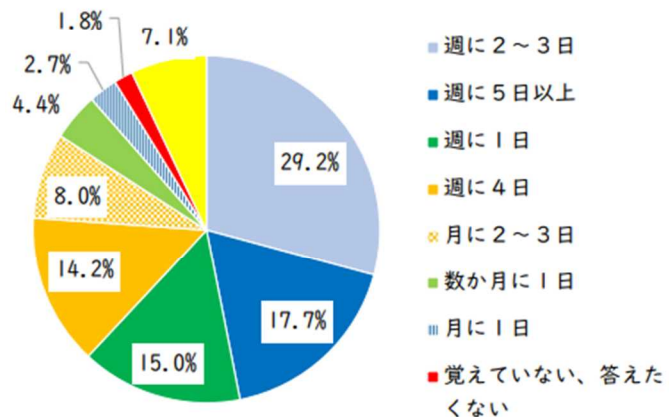
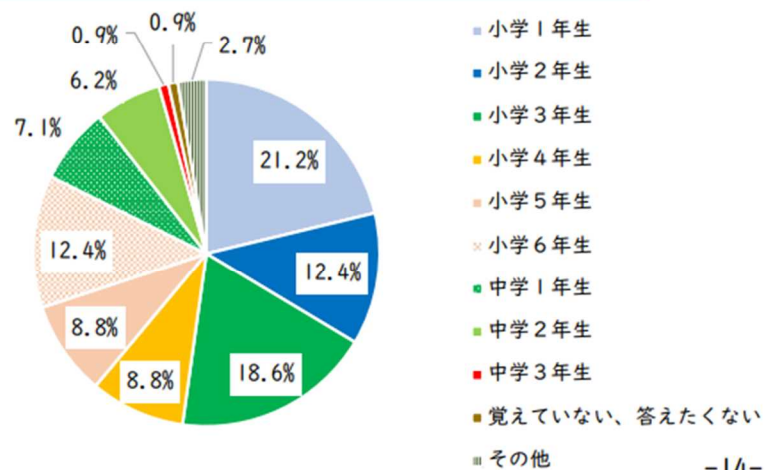
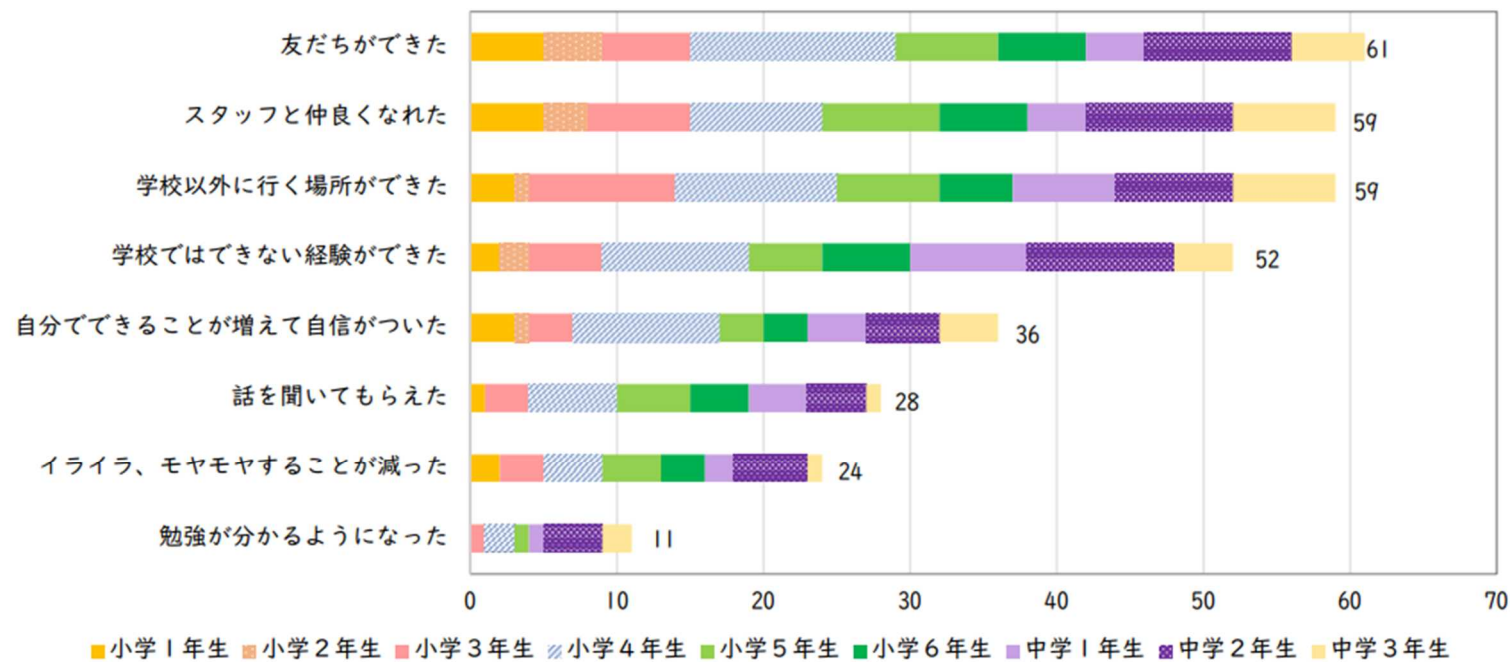


図24 フリースクール等民間施設利用開始時期



約6割が「友だちができた」「学校以外の居場所ができた」、約4割が「自信がついた」と回答。

図25 フリースクール等民間施設を利用してよかったこと(複数回答)



※学年：令和6年度の学年

「経済的負担」が最も多い。約7割の保護者が送迎しており、送迎も大きな負担となっている。また、勤務時間等の変更など仕事の調整が負担であると4割以上が回答。

図26 利用上の負担（複数回答）

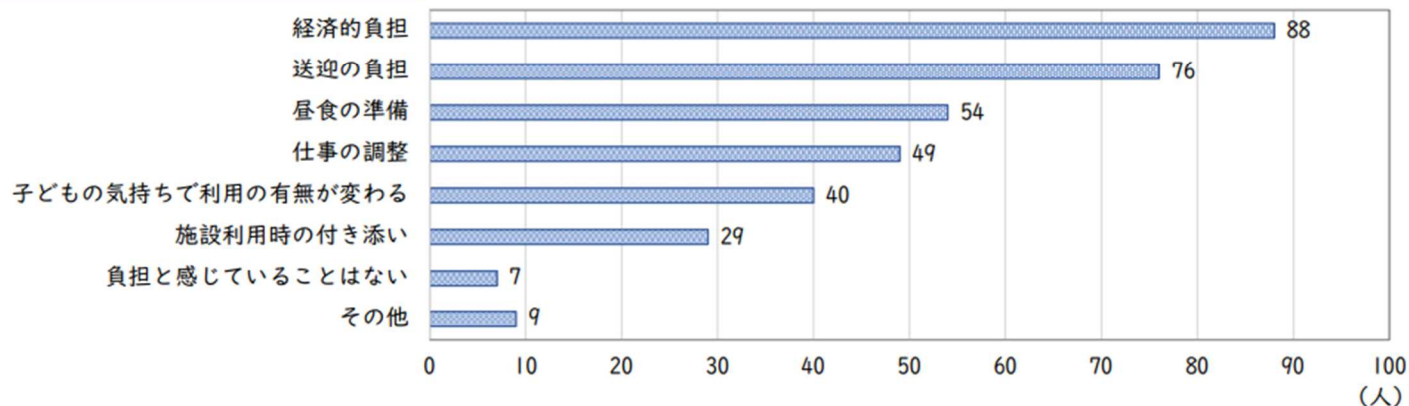
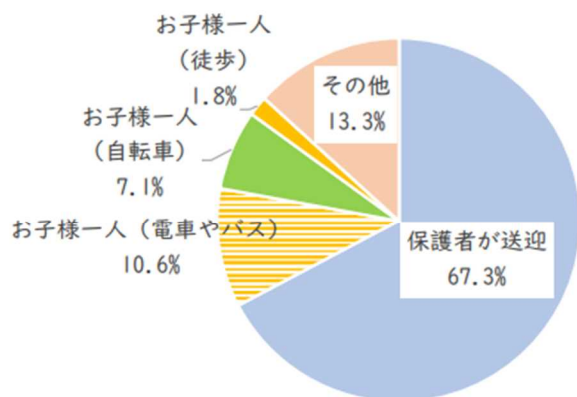


図27 通所方法



（参考）仕事への影響：106人（52.7%）（n=201）

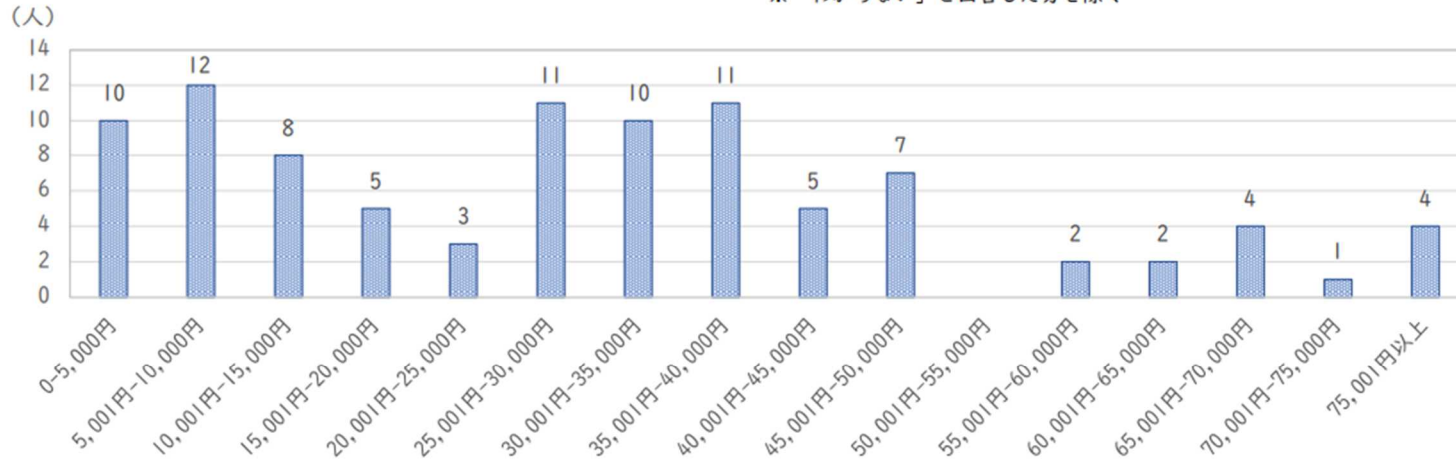
【仕事への影響】（複数回答）

・遅刻・早退・欠勤の増加	51名(33.3%)
・勤務時間等の変更	42名(27.5%)
・テレワークの増加	10名(6.5%)
・退職	22名(14.4%)
・転職	11名(7.2%)
・転職・退職を考えている	2名(1.3%)
・雇用形態の変更	6名(3.9%)
・休職	2名(1.3%)

※回答数：世帯で最も収入が多い人（113名）、次いで収入が多い人（88名）

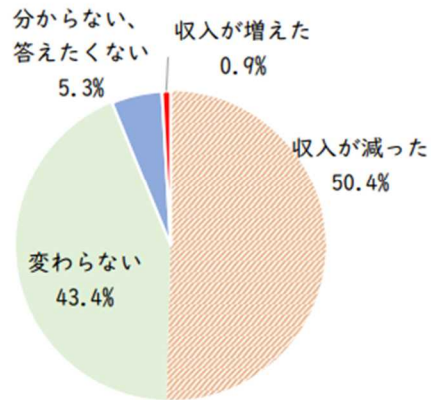
図28 毎月の負担総額（授業料、教材費、昼食代、交通費、活動費の合計）（n=95）

※「わからない」と回答した分を除く



半数の世帯が「収入が減った」と回答

図29 世帯収入への影響



(参考) 世帯収入

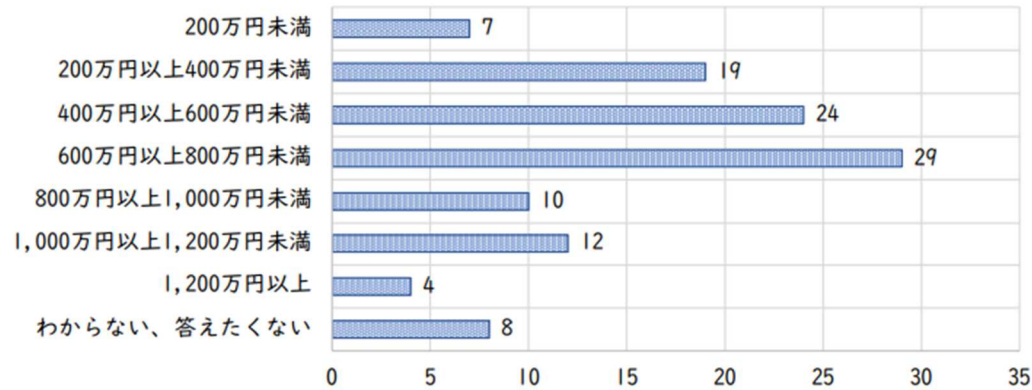


図30 フリースクール等民間施設に対して求める公的支援

「民間施設運営者補助」が最も多く、次いで「利用者補助」を求める声が多い

